



2009アジアユースパラゲームスin東京

が、開催されました!!

多くの指導員協議会の皆様のご協力を得てすばらしい大会になりました!!!

9月に行われた「東京 2009 アジアユースパラゲームス」。初めての国際大会でした。スポーツ指導員協議会からも 100 名を超える指導員の方が協力して下さいました。前田会長も選手村の副村長として村長を助け朝から深夜まで村の隅々まで、さらに各競技会場を回って八面六臂の大活躍でした。皆様方も各競技会場でそれぞれの持ち場で指導員として本領を発揮して活躍していただいたと思います。充分できたでしょうか？部所によっては不本意なことがあったようですが、多くの団体や雑多な人々が集まって一つの大会を作り出す苦労や盛り上げていく事の難しさ、逆に楽しさや選手の笑顔に出会って多くのことが学べたのではないのでしょうか？めったにない国際大会を共に支えたということは、本当に良い体験になったことでしょうか。とにかく懸念されるような大きなトラブルも無く、終わることができて大成功だったと思います。協力してくださった皆さん本当にご苦労様でした。 副会長 岡

◆ 「東京 2009 アジアユースパラゲームス・ゴールボール」

東京 2009 アジアユースパラゲームス・ゴールボール競技は、エキジビション・マッチを含め 9 月 10 日～13 日 代々木第二体育館に於いて、男子 7 カ国・女子 2 カ国の参加で開催されました。

この大会は日本に於ける記念すべき初の国際大会でもありました。IBSA・ゴールボール最高責任者のジム氏、審判長のキース氏、他 4 カ国の審判を迎え、日本の担当役員は勿論、オフィシャルスタッフも研鑽に研鑽を重ねこの日を迎えました。エキジビション・マッチでは March-in から BGM、応援の仕方に至る迄細かくジム、キース両氏からチェックが入りましたが、そのお陰もあり 11 日の大会初日は 10 試合と言う試合数にも関わらずスムーズに流れて行きました。

男子は国によって体格の差がずいぶんあったと思います。又、お国柄が出て礼儀正しいチーム、そうでないチームの差が歴然、自国では許されない事柄が日本でなら許されると言う傍若無人なチームもありました。その中でタイのチームの礼儀正しさと、小柄ながら 1 試合目に格上のチームと引き分けた後の自信に溢れたプレーで準優勝に輝いたのは見事と言う他なく、会場全体が拍手で称えました。女子はキャンセルが相次ぎ、日本とイランの参加 2 カ国と寂しかったのですが、日本チームが 3 戦 3 勝とパーフェクトな勝利を治めました。

今回、私は普段選手自身で行う為、オフィシャルの方達も未経験のアイ・パッチャーと言う、アイシェードの下、つまり直接目の上にアイパッチを貼る係りをさせて頂きました。試合前の練習後に貼る為、汗をかいた選手に貼るのは、汗の量によってタオルで拭いても中々大変でしたが、キース氏に貼り方を教えて頂いたり、初日にジム氏から仕事ぶりを誉めて頂いたり、周りの方達に助けられ 4 日間を恙なく終了する事が出来、ホッとしております。ジム氏をはじめ審判・役員・オフィシャルの方々もとても暖かく、寛大な方達でとても楽しく毎日お仕事をする事が出来ました。

又、観衆の少ない時でも、会場に人で一杯のように、連日リーダーの元声が枯れる程大声援をどの国に対しても平等に送り続けた日体大生、素晴らしかったの一言です!! 大会終了後、オフィシャルと日体大生 2 つの列はフロアを練りながら、どの顔も涙・涙のハイタッチとその後のそれぞれのリーダー達の胸上げは忘れられない思い出となりました。本当に素晴らしい大会に参加させて頂き、貴重な体験をさせて頂き感謝致します。有難うございました。(M)

◆ 水泳競技を担当して

私は水泳担当で、知り合いが沢山居たのでチームワーク良く出来ました。語学学生達も一生懸命で私も語学を学ぼうと思いました。水泳は都水連さん、障害者スポーツ指導員、学生ボラ達が一つになって行うの中には「私達はあなた達とは別格」と言う方、障害スポーツ事態を理解



出来て無い方が居たのには残念でした、事前に研修が有った方が良かったかな？大会後も本部の仕事をしました、影の力が有ったから出来た大会としみじみ感じました、お疲れさまでしたあ。以上 (K)

◆ アジアユースパラゲームスの感想(ゴールボール競技)

私は 9 月 11～13 日に開催された、アジアユースパラゲームスのボランティアスタッフをやらせて頂きました。やろうと思ったキッカケは、友人に誘われ、「滅多に出来ない経験が出来て楽しそうだな」と思い、数十分後に始まる説明会に参加しました。

私は、何競技かある中から「ゴールボール」の担当になりました。

初めて耳にする競技で、どんな競技なのか・どういう障害を持った方々がやるのか全くわかりませんでした。2 回目の説明会でボーリングのような競技で視覚障害の方々が行うスポーツだということを知りました。その時に、「体験してみよう」ということになり、実際に使われているアイマスクをつけ、鈴の入ったボールを投げ合いましたが、少し動くと自分がどっちを向いていて、どこに投げているのか、どこで鈴が鳴っているのか全くわからず全然動けませんでした。そのため、この時は、まさかあんなに激しいスポーツだとは想像できませんでした。

実際に大会で見ると、選手たちはアイマスクをしているにも関わらず、本当は見えているのではないかと思うくらい正確にボールを拾いに行ったり、回転しながらゴールの端を狙って投げたり、それを取るために素早く身体を伸ばし防御したりと攻防が激しく、見ていてすごく楽しめる競技でした。また、視覚障害ということを感じさせず、一生懸命やっている選手達は輝いて見え、自分の在り方を考えさせられました。

また、今回はボランティアということで、大会会場のインフォメーションや選手の誘導、アクセスコントロール等といった裏側のお手伝いをさせて頂きました。さらに、私はちょっとしたキッカケから本部の方々と連携をとらせて頂くことになり、本部には入れるようになりました。そこでは、観客の方々がわかりやすいように前日から資料を用意したり、試合がスムーズに進むようにタイムスケジュールを作っていたり「より良い大会」にするために、たくさんの方々が朝早くから夜遅くまで活動していました。こういった決して目立ちはない方々の協力なしではこの大会は成功しなかったでしょう。これは、表舞台だけを見ていたら決してわからないことでした。

私は、このボランティア経験を通して、仲間の大切さ、報連相の重要性、英語の大事さスポーツや人との出会いの素晴らしさを改めて実感しました。短い期間でしたが、とても濃い充実した時間となりました。

誘ってくれた友人、ゴールボール担当の方々、同じボランティアの方々、選手の方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。

◆ アジアユースパラゲームスの感想(総務として)

代々木にある青少年総合センターが選手村になりました。決して使い勝手が良いとはいえない選手村なのですが、そこの選手相談窓口というところで選手団からの諸々の問い合わせや要望に対応し、選手の皆さんが快適に過ごしていただくためのお手伝いをさせて頂きました。東京都障害者スポーツ協会が受け持った仕事でしたが指導員はその補助といった立場でした。想像していた以上のハードな仕事でスポーツ協会の担当職員の方々のご苦労は並大抵ではなく私たちも何とか力になりたいと頑張りました。24 時間対応でまさに寝る時間がない状態です。

この施設ですが、シャワーがついていない棟があったため、割り当てられた選手団に対するシャワールームの管理、点検、割り当て、車いすの選手のための仮設のシャワールームへの対応、また鍵の貸し出しや点検等、またイスラム教のラマダンの時期に重なったこともあったようです(ラマダンは日没まで食事ができず、日没にあわせて身体を清めてからの食事になるそうです。ちなみに日没は本国にあわせてみたいです)。夜中の 2 時 3 時と言った時間が連日となると合言葉の「笑顔、スマイル」の顔もかなりゆがんでいたことは間違いありません。

選手の皆さんも慣れてくると窓口利用も増え相談、苦情もありましたが、ただ単に遊びに来る選手もあり折り紙教室を開いたり、柱に作ったメッセージの書き込みスペースにいろいろ書いたり楽しいことも多くありました。選手の年齢に近い一般ボランティアや語学ボランティアの学生さんたちも一緒に頑張りました。

帰国の途についた各国の選手団を笑顔で見送ったあとは、余韻に浸っている余裕は無く各部屋の清掃のスタートです。ゴミの山、悪臭と格闘しながら協会の担当者、指導員、見かねた本部 TAYPOC の数人の応援でやり遂げた仕事です。寝不足と数日間の対応などでかなり体力的にも限界を乗り越えていました。それにしてもスポーツ協会の皆さん実に良く働いていました。本部での佐藤仁さん、現場での近藤さん、村松さん、遠藤さん清水さん、金子さん、永田さん、本田さん、応援部隊の両センターのみなさん、一緒に頑張った指導員の皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。(O)

**東京で初めて行われた国際大会！ 会員の皆さんのお陰ですばらしい思い出ができました
ご協力ありがとうございました!!!**



会員の皆さんの活動報告

《ゴールボールの魅力》

昨年 10 月、障害者スポーツセンターを通じて「ゴールボール」という競技に初めて出会う事が出来た。世の中には数え切れないほど沢山のスポーツがあり、実際私自身も多くのスポーツを体験してきたけれど、ゴールボールは今までに体験したことのない全く初めてのスポーツで、私にとってそれはとても新鮮に感じられた。だからこそゴールボールに出会った瞬間から、競技についてもっと深く知りたいと思うようになった。

ゴールボールはもともと視覚障害者のスポーツで、1 チーム 3 名の選手が鈴の入ったボールを投球して攻撃したり、鈴の音を頼りに身体全体を使ってセービングをするなどの攻防を行い、得点を競い合うスポーツである。アイシェードという目隠しをした選手たちが鈴の音を聞き逃さないよう静寂の中でゲームは進み、ゲーム中は観客にも緊張感がひしひしと伝わってくるのがわかる。その緊張感が本当に新鮮で、毎回ドキドキさせられるのだ。

選手は目隠しをした状態、つまり何も見えない状態で試合を行う。言葉では簡単に言えるけれど、何も見えないということは本当に恐くて不安なものだろうと思う。しかしさらにその状態で試合をするのだから、選手の集中力や精神力といったものは他のスポーツに比べてもかなり高いものだと言えるのではないだろうか。

人は約 8 割の情報を視覚から取り入れると言われていたから、単純に考えると残りの 2 割の情報を頼りに競技を行っていることになるだろうか。ゴールボールで言うなら、鈴の音を聞く「聴覚」や、紐が通ったラインテープを手で触る「触覚」などだろう。私が観客として試合を見ている時は、鈴の音がどこから聞こえるのか全く分からないように思えるのだが、実際にゴールボールを体験したことのある人に伺うと、目隠しした状態でもちゃんと鈴の音がする方向が分かるのだそうだ。そういった観点からみても、私にとってゴールボールは本当に興味深く、心惹かれるスポーツなのだ。

ゴールボール自体まだメジャーなスポーツではないため、大会も頻繁に開かれるものではない。だからこそ余計に、一つ一つの大会がとても貴重で意味のあるものだと私は思っている。現在私はオフィシャルスタッフとして大会に参加させて頂き、スコアをつけたりタイマーを経験したりと日々勉強させて頂いているが、もっときちんとルールを理解し、沢山の経験を積みたいと思っている。ゴールボールでは選手たち自身が目隠しをしているために、ファウルやゴールすら自分たちで見て感じる事が出来ない。つまり、私たちオフィシャルスタッフやレフェリーに試合の全てが握られているといっても過言ではないと思っている。だからこそ、ミスのない正確な判断が出来るようこれからも経験を積んでいかなければと思う。そして少しでもゴールボールが世界に広まり、どんな形であれ携わる人が増えるような活動も今後行なっていければと、私の野望は広がっている。(K)

《2009 年 8 月多摩障害者スポーツセンター納涼祭》



2009 年 8 月、今年も多摩障害者スポーツセンター納涼祭のボランティアスタッフとして参加させて頂きました。毎年、多摩障害者スポーツセンターの夏の風物詩であります。納涼祭は、利用者の方もボランティアスタッフとして参加する方々も、全員が楽しめるイベントだと私は思い、いつも参加させて頂いております。特に人と人との繋りや協力し合う大切さなどを実感できるイベントでもあると思っております。

朝の準備段階で、名前も知らず、年齢も違う方々と出会って、協力し合いながら作業を行う中で、徐々に気持ちひとつになっていき、祭りの本番が始まるのです。祭りが始まると、普段この施設を利用されている方々も祭りを楽しみながら模擬店の運営にも参加されていて、ボランティアスタッフと共に、一生懸命呼び込みをしたり、お会計をしたりと、一緒に汗をかき仕事をしておりました。皆で、この納涼祭を作って、共に楽しんだんだ…という気持ちになりました。それは日常生活であまり感じる事ができない“一体感”で、ただお手伝いをするだけではないボランティアスタッフとしての良い部分だと感じております。

私は、そんな良い雰囲気のある多摩障害者スポーツセンターが好きで、来る度に職員の方や、利用者の方々から元気を頂けるので、いろいろな行事や教室に参加をさせて頂いております。これからも納涼祭を始め、いろいろなボランティアスタッフをさせて頂ければと思います。(YN)

《2009 年 8 月障害者総合スポーツセンター納涼祭》



平成 21 年度東京都障害者総合スポーツセンターの納涼祭に指導者協議会として参加、模擬店でたこ焼きコーナーを担当しました。指導委員の方々 10 数名とそれぞれの担当に別れ作業しました。

私は仕入れとセンターへの持込作業をしました。それぞれの方々が汗をながしながら一生懸命活動してくれました。天候にも恵まれ多くの人達が参加し盛大に開催されました。地元の方々始めセンターの利用者関係団体の人達が一つになって、一年に一回開催する活動の素晴らしさを体験しました。又指導委員の方々のボランティア精神に感動しました。これからも指導者の方々とともに活動したいと思いました。ありがとうございました。(S)

☆平成 21 年度 第 2 回 研修会☆

去る、7月18日(土)に東京都障害者総合スポーツセンターにて今年度2回目の研修会を実施しました。当日は、講師に東京都多摩障害者スポーツセンター指導員であり日本障害者スポーツ協会の技術委員である 高山 浩久氏に全国障害者スポーツ大会の障害区分について講習が行われました。

研修では各競技ごとの障害区分表を参考にし、講師から「この種目でこのような障害を持つ競技者の区分は？」から始まり、テキスト上の区分だけでなく大会への帯同経験から実情を含めた障害者の健康上の留意点など大変貴重なお話も伺うことが出来ました。

研修会に出席の皆さんからは「分かりやすかった」「今後も同様の研修を希望する」などの意見をいただきました。また、「指導方法の事例研究」「知的障害、精神障害、認知症障害について」など今後の研修の内容の希望などの意見もいただきました。

※ 次回、研修は…

11月14日 19時より東京都障害者総合スポーツセンターにて「スポーツ吹矢」を行います。
詳細につきましては別途お知らせをご覧ください。

《研修会「障害区分」に参加して》

初級障害者スポーツ指導員の資格を取得してから、もうすぐ1年が経とうとしています。今回、研修会「基本的な障害区分の理解のために」に参加した理由は、障害者のスポーツの基本である「障害区分」や「クラス分け」を実際よく理解していなかったからです。この機会をいかしてより障害者スポーツを知りたいと思いました。

障害区分の問題点や課題を聞いて、みんなが本当に理解しやすい区分方法の確立が求められることを知りました。障害区分について理解を深めることによって、より競技のおもしろさを知ることができ、競技者へのより良い支援ができるのだなと感じました。

私は現在大学3年生で実習での配属先で、障害者のスポーツ支援をしています。この研修会で得た知識がとても役に立っています。

またこのような機会があったら積極的に参加していこうと思います。

ありがとうございました！(Y I)

《第10回東京都障害者スポーツ大会》アーチェリー競技

第10回東京都障害者スポーツ大会アーチェリー競技は、5月31日東京都障害者総合スポーツセンターで開催された。あいにくのくもり空も吹き飛ばすかのような熱戦が繰り広げられた。25名の選手の参加があり、リカーブ50・30m、リカーブ30mダブル、リカーブ18mダブル、リカーブ12mダブル、コンパウンド50・30m、の5種目が行われた。



選手の的を見つめる真剣な表情と、一本一本集中して射るアーチェリー独特の緊迫した会場の雰囲気は、観戦するほうにも魅了されるものがあった。

今大会では拮抗する得点の中、最高得点が660点を越えるというこれまでにない高得点となった。今大会は10月に新潟で開催される全国障害者スポーツ大会の選考会も兼ねており、アーチェリーの代表選手にはとても期待できる。

《第10回東京都障害者スポーツ大会》フライングディスク競技

平成14年6月1日の第3回東京都障害者スポーツ大会に平成13年7月に日本障害者フライングディスク連盟の第二種公認指導者と認定を受けて初参加以来、今年の第10回記念大会で連続8回目の参加になりました。東京都障害者スポーツ協会の創立以来フライングディスク競技の運営スタッフの募集等は東京都フライングディスク協会に委任されるようになったため東京都スポーツ指導員協議会員の3月末までに提出する毎年の協力依頼の項目の中に掲載されなくなり会員の協力依頼の提出が終わった後に、東京都障害者フライングディスク協会からのスタッフ募集が来るためか今年の東京の指導員で審判を受け持ったのは2名だけであとは神奈川、埼玉の指導員でした。大会はここ2,3年は雨にたたられ続けていましたが、ことしは大会の始まる頃には雨もやみ助かりました。前日に予想していた風向きとは逆の風向きでピンの打ち直しはありましたが午前中はアキュラシー競技を9サイトで行い競技者は372名でした。昼食のあと午後からは、ディスタンス競技が5サイトで行われ競技者は99名でした。日本体育大学の元気な学生さんがアキュラシー競技では45名ディスタンス競技では40名がきびきびとして競技を盛り上げてくれました。ありがとう。雨も上がり今日の大会のために競技に取り組んできた競技者たちの笑顔や、達成された満足感あふれた表現は素晴らしいものでした。スポーツの持つ素晴らしさを実感しました。また頑張ろう!! (H)

第 2 回 理事会報告

日時：7月9日（木） 午後7：00 飯田橋スポーツ協会

出席：前田、岡、佐野(里)、植田、松浦、秋山、江上、島、有泉、矢本、井上、佐野(守)、近藤(き)、近藤(和)、三浦

前田会長の挨拶～都大会お疲れ様でした。アジアユースパラボランティアの協力を。

<報告事項>

1. 日本障害者スポーツ協会の動き

(1) 都大会の実施状況

近藤（和）～都大会の前半が終了、大きな怪我もなく実施できた。10回目の大会となり、指導員協議会として感謝状をいただいた。ゴールボールを実施することができ、また全国大会の選手選考も終了した。今回の改善点としては知的の大会でボランティアの動き方を変更、これまで以上の工夫を行った。

(2) ユースパラについて

近藤（和）～7月10日に知的部門の最終エントリーが終了。参加の判定基準の問題で参加者が減ることが予想される。前田会長が選手村の副村長に。

2. 関東ブロックの動き

(1) 全国研修会

植田～全国研修会は来年の2月13日～14日、山口の下関で開催。1日目座学、ボッチャ、2日目に実践という流れで。次回は近畿ブロックでの開催（予定）

(2) 21年度実践研究発表会

植田～昨年度のアンケートからグループでの討論の時間を設けた。実践研究の発表は最大で6本の予定。また今回の目玉はゴールボールです。

<協議事項>

(1) 総務部

三浦～①7月18日の研修終了後に「暑気払い」を実施する。

②杉並区地域大学のとりくみでは、講義内容の変更に対応しカリキュラムを作成した。

③王子 SC での納涼祭の実施について 8月22日指導員協議会では「たこやき」を行う。責任者は佐野（守）理事

(2) 研修部

江上～7月18日王子 SC で「クラス分け」の研修、講師は高山理事

(3) たより

原稿のしめきりは9月28日 発行は9月30日

☆次回理事会

9月30日（水） 19時～飯田橋スポーツ協会会議室

ちよっと気になるいい話

『一アスリートとして』



2008年の夏を一番に盛り上げたのは、やはり北京オリンピックだろう。全力を出しきった選手たちの最高の演技、最高のプレーは、テレビを通して、私たちに多くのことを伝えてくれた。オリンピックの閉幕後、同じ北京で次はパラリンピックが開催された。

まだ夏休みに入る前、私はあるニュースを見た。「台東区から北京へ」そう題されたニュースは、台東区役所にて行われた、女子レスリング日本代表 浜口京子選手と、パラリンピック女子走り幅跳び代表 佐藤真海選手の壮行会の様子を伝えたものだった。そのニュースと一緒に見ていた父は、「パラリンピックもオリンピックと同じくらい注目されるといいね」と話していた。

父は4年前、地元の区で、パラリンピックとオリンピック二つの壮行会を同時に行おう、と話しをしたという。しかし、全面的に反対され、結局は別々に開くことになった。オリンピックはスポーツ、パラリンピックは福祉、という反対派の意見を悔しそうに、時には怒りをこめて話しているのが印象的だった。

また、父からこんな話も聞いた。1998年、長野で行われた冬季オリンピックでの話だ。パラリンピックはオリンピックの後に開幕するため、両大会の出場選手は、同時期に同じ場所で練習を行うことになる。もちろん、両選手とも本番と同じ舞台での練習を望むわけだが、これに一部競技役員が待ったをかけた。オリンピック種目のスピードスケートと、パラリンピック種目のアイススレッジ。どちらもスケートリンクで行う競技で、アイススレッジはストックを使う競技である。そのため、氷に傷がつくから一緒に練習しないでほしいと、一部役員が言い出したのだ。その時、スピードスケートの清水宏保選手はパラリンピックの選手たちに「一緒にやろう」と声をかけたという。しかし、役員意向により、別々に練習を行うことになってしまった。しか

もそれは、オリンピック選手が絶対的に優先されたものだった。オリンピック選手が使っていない時のみ、練習を許されたパラリンピック選手は、夜中に練習することになり、生活ごと昼夜逆転せざるを得なくなった。

この問題に、他の解決策は無かったのだろうか。午前と午後で交代したり、元をたどって一緒にできるような練習にするなど、選択されるべき策があったはずだと私は思う。

しかし、今回の大会でパラリンピックへの意識が変わってきていることを感じる嬉しい出来事もあった。例えば、新聞を見ると、前大会のアテネの時に比べ、大きく変わったことがある。それは、パラリンピック選手の活躍でスポーツ面が飾られる数が増えたことだ。前大会までは、社会面で取り上げられていたパラリンピックが、今大会からスポーツ面で掲載されるようになった。これは、パラリンピックに対しての意識の変化が垣間見える出来事だった。障害を乗り越え何かを頑張っている、という福祉の考えから、社会面で取り上げられていたパラリンピックが、オリンピックと何も変わらないスポーツとして掲載されるようになったのは、選手一人ひとりがアスリートとして認められるための第一歩になったと思う。

長い間、ひとつの大きな舞台に向け、辛い練習を重ねてきたのは、オリンピック選手もパラリンピック選手も同じだ。胸の中で自分自身を支えるのは、どちらも同じアスリートとして積んできた、努力と自信だろう。選手たちは日の丸を背負う代表として、一アスリートとして注目されるべきだと思う。もし、ロンドンの次に東京でオリンピックが開催される時には、パラリンピック選手を取り巻く環境が、少しでも改善されていることを期待したい。(J) 一弁論大会で審査員特別賞をとった、女子中学2年生

事務局からのお知らせ

☆ボッチャ審判員の募集

- ・開催日：平成 22 年 1 月 24 日 第 5 回新春ボッチャ大会
- ・場 所：王子センター
- ・申し込み方法：名前、連絡先、年齢明記し、ファックスで指導協議会迄
- ・締め切り：11 月 4 日

☆平成 21 年度 研修会のお知らせ

- ・日 時 2009 年 11 月 14 日 (土) 午後 7 時から午後 8 時 30 分まで
- ・場 所 東京都障害者総合スポーツセンター 1 階 体育館
- ・講 師 社団法人日本スポーツ吹矢協会障害者サポート部 部長 荒井 和子氏
- ・申し込み方法

申し込み時に次の内容を記載 (お伝え) 下さい。

氏名、指導員登録番号 (指導員協議会送付物の宛名ラベル右下に明記に)、連絡先電話番号

①メールで 事務局へ info@tcsid.jp

②FAX で 東京都障害者スポーツ指導員協議会宛 03-5206-5587

③電話で 事務局へ 但し、毎週水曜日のみ (午後 1 時から午後 4 時 30 分まで)

090-1034-5963 上記時間外は留守番電話にて対応いたします。

- ・ 申し込み締め切り 2009 年 11 月 11 日 (水) まで

☆2009 ウィルチェアー・ラグビー初心者講習会のご案内

- ・日 程 2010 年 1 月 30 日 (土)
- ・場 所 東京都多摩障害者スポーツセンター
- ・受講費 無料 (指導員協議会会員のみ)
- ・問合せ先 幸本義弘 携帯 090-3409-8313 TEL/FAX 03-5346-1868

☆今年度新たに初級指導員の資格を取得した方へ

活動会員登録用紙に記入して指導員協議会への登録をお願い致します。

登録方法指導員協会のホームページ (<http://www.tcsid.jp/>) からダウンロードして

事務局に提出をお願いいたします。

編集後記

「天高く馬肥ゆる秋」

気候も良くなり、食べ物もおいしい季節になりました。

体型がきになりながらも つい食べ過ぎてしまう今日この頃。

反省をしては運動をする私にいいアドバイスを・・・

